

## 2016 年度 小委員会活動成果報告

(2017 年 2 月 15 日作成)

|                              |   |  |
|------------------------------|---|--|
| 小委員会名                        | 比較居住文化小委員会  | 主 査 名：前田 昌弘<br>就任年月：2016 年 4 月   |
| 所属本委員会<br>(所属運営委員会)          | 建築計画委員会<br>(住宅計画運営委員会)  | 委員長名：大原 一興<br>主 査 名：黒野 弘靖  |
| 設 置 期 間                      | 2016 年 4 月 ～ 2020 年 3 月   |  |
| 設 置 目 的<br>各年度活動計画<br>(箇条書き) | <p>人・物・情報が世界規模で行きかう現在、それらの要因に影響を受け、居住の質も劇的に変化している。こういった状況下、フィールドワークによる居住文化の研究および、それをもとにした多様な展開を推進し、建築学の発展に寄与する。各年度とも以下の活動を行う。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 地域に根ざした計画手法の集積および、その研究</li> <li>2. フィールドワークによる居住文化研究に関する情報の発信</li> <li>3. フィールドワーク事例の見学会の開催</li> <li>4. フィールドワークを主体とした研究を行ってきた研究者による、研究の視座および方法論を紹介する書籍の刊行準備</li> <li>5. 上記目的にそった拡大小委員会および公開研究会の開催</li> </ol> |  |
| 委員構成<br>(委員名(所属))            | <p>委員公募の有無：有</p> <p>主査：前田昌弘(京都大学)、幹事：栗原伸治(日本大学)、本間健太郎(東京大学生産技術研究所)</p> <p>委員：アルマザン・ホルヘ(慶應義塾大学)、稲垣淳哉(早稲田大学)、上北恭史(筑波大学)、内海佐和子(室蘭工業大学)、北原玲子(名古屋女子大学)、小林広英(京都大学)、サキヤ・ラタ(東京大学)、清水郁郎(芝浦工業大学)、高田静(Hot Butter Design Office)、那須聖(東京工業大学)、濱定史(東京理科大学)、山田協太(京都大学地域研究総合情報センター)</p>   |  |
| 設置 WG<br>(WG 名：目的)           |   |  |
| 2016 年度予算                    | 135,000 円   | ホームページ公開の有無：有<br>委員会 HP アドレス：<br><a href="http://news-sv.aij.or.jp/keikakusub/s25/index.html">http://news-sv.aij.or.jp/keikakusub/s25/index.html</a> |

| 項 目   | 自 己 評 価  |
|---|--|
| 委員会開催数  | 4 回 (年度内計画を含む)   |
| 刊行物<br>(シンポジウム資料等は除く)                         |  |
| 講習会   |  |
| 催し物<br>(シンポジウム・セミナー等)<br>*能力開発支援事業委員会<br>承認企画 | <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 公開研究会「居住環境を記述するー建築史・建築環境からみた居住環境を通して比較居住文化を考えるー」<br/>参加者数 21 名</li> <li>2. 拡大研究委員会「風土に根ざした建築の再生：ベトナム、フィジー、タイにおける風土建築再建プロジェクト」<br/>参加者数 15 名</li> </ol> |
| 大会研究集会  | 1. 2016 年度日本建築学会大会(九州) 建築計画部門研究協議会「居住文化とミュージアムーネットワークでつなぐ新しい博物館のかたち 建築計画編」<br>(資料名) 同上   |
| 対外的意見表明・パブリックコメント等                            |  |

|   |  |
|---|--|
| <p><b>目標の達成度</b><br/>(当初の活動計画と得られた成果との関係)</p> | <p>下記の通り、当初の活動計画における目標は概ね達成されている。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 拡大委員会および公開研究会を通じてフィールドワークおよび居住文化研究について活発な議論を行い、知見をさらに深めた。</li> <li>2. 2016年度大会では文化施設小委員会と共同で研究協議会「居住文化とミュージアム」を開催し、隣接分野の研究者との議論を通じて当該のテーマに関する知見を深め、さらに、当該のテーマに関連して募った多くの寄稿を取りまとめた冊子を刊行するなど、広く情報発信に努めた。</li> <li>3. 書籍「建築フィールドワークの系譜」の刊行にむけた作業を通じて、当該のテーマについて活発な議論を行い、知見をさらに深めた。</li> </ol> |
| <p><b>委員会活動の問題点・課題</b></p>                    | <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 書籍の刊行について、企画の性質上、資料の収集に当初想定していた以上の時間と労力を要している。そのため、刊行の時期が予定よりも遅れているが、資料収集の目処は概ね立ってきたので、早急に取りまとめ、刊行する予定である。</li> <li>2. 公開研究会では密度の高い議論ができていますが、集客力という点ではやや物足りないので、今後もテーマ設定や企画について精査し、より一層活発な会としていきたい。上記書籍の刊行と連動したイベントなども検討している。</li> </ol>  |